

有識者や団体代表者による計画案の審議

市内団体の代表者や有識者で構成し、計画案を審議する会議が総合計画審議会です。平成25年5月に市長から総合計画策定について諮問を受け、26年8月までの間に8回の会議を開催しました。

審議の中では、若者が求める雇用や労働環境、起業支援の充実などに係る意見が出されるところに、成果指標の設定や計画案の文章表現まで、きめ細かく、慎重な審議が重ねられました。

26年8月8日に審議会会長の坂本光司教授(法政大学)から市長に総合計画案に係る答申がされ、答申時にはこれまでの審議の経過を考慮し、7



計画案を慎重に審議し考えをまとめる

つの付帯意見が添えられました。

- 答申時の付帯意見
- ▼市全体で協働して推進する体制の構築
 - ▼若者が魅力を感じる環境の充実と活力の向上
 - ▼沿岸部の市民の安全安心の向上
 - ▼基本理念の政策全体への波及
 - ▼重点プロジェクトの推進
 - ▼成果指標による進捗管理とPDCA体制の構築
 - ▼交流人口、定住人口増加への積極的な取り組み
- このように多くの市民の皆さんが携わり策定された総合計画の基本構想は、市議会9月定例会において全会一致で可決されました。



市長に答申する審議会のメンバー

総合計画審議会

(25年5月～26年8月)

平成26年
市議会
9月定例会
計画の議決

審議会の答申

参加者の感想

みんなつながり地域を元気に

前向きで活発な議論を通じて、「がんばるぞ」と思えるパワーが詰まった計画ができました。

熱い気持ちを持った人たちがつながって情報を発信し合えば、もっと地域が元気で住みやすくなると思います。



静岡産業大学
永田 奈央美 さん

市の将来に希望が持てた

若い人たちが一生懸命取り組んでいることを肌で感じ、この市の将来に希望が持てました。

みんなでまとめた計画は必ず協力してくれる人がいると思います。私も色々な課題解決に向けて協力していきたいです。



榑原総合病院
西郷 美智子 さん

市と各団体が一緒の方向に進む

今回の話し合いに参加して、牧之原市全体の進む方向が良く分かりました。

商工会などの各団体も市と一緒にの方向を向いて、前に進んでいかなければいけないと強く感じました。



牧之原市商工会
小塚 裕万 さん

大人が子どもに頑張る姿を見せる

これからの牧之原市には活力が必要です。

私たち大人ががんばっている姿を子どもたちにしっかり見せることが、将来に向けて活力あるまちをつくることにつながると思います。



静波保育園
増田 多朗 さん

総合計画を進めるためのこれからの取り組み

目標値の設定

総合計画では、子育て、農業など28の個別分野一つ一つに現状と課題、方向性を記載

するとともに、市民、地域、企業、団体などに期待される役割と市の役割を明確にしました。

また、全ての個別分野に4

年間で達成する目標値として、72の数値目標、51の行政の取り組みへの満足度目標を設けました。明確な目標値を定めることで、成果を確認しやすくし、着実な取り組みを推進していきます。

6つの目標を左に例示します。

計画の推進と進行管理

各分野の目標を達成するためには、行政と民間が現状、課題、方向性を共通理解し、その実現に向けて役割分担をして取り組むことが必要です。

そのため、今回の総合計画の策定(PLAN)と同様に推進(DO)、点検評価(CHECK)、改善(ACTION)にも多くの市民の皆さんに関わってもらい、市全体で推進していく体制づくりをしていきます。

平成26年度中には、市内に牧之原市総合計画推進本部を設立し、重点プロジェクトを中心とした全庁的な推進体制を整備します。また、民間部門の推進を担う市民組織も設立し、各分野において市民、地域、団体、企業が実施している取り組みを整理します。

そして、市と市民組織が連携し、関わりをさらに深め、住みたいまちとなるよう効果的に協働する体制づくりに取り組みます。

多くの市民の皆さんの思いが詰まった総合計画が、着実に推進できるよう、実効性の高いPDCAサイクルの構築を進めていきます。

推進体制のイメージ図



計画のPDCAサイクル



●子どもを産み育てやすい環境と
感じる人の割合

数値目標 33.5% ⇒ 70.0%

地域による見守り体制や子育てと仕事が見込める職場環境の整備など地域や企業と連携して総合的な子育て支援を充実します。

●子どもを通わせたいと思える学
校づくり

満足度目標 42.2% ⇒ 62.2%

国際理解やコミュニケーション力の向上などを通じて、児童生徒が一步を踏み出す追究となる学習を進めます。

●年間の新規雇用者数

数値目標 564人 ⇒ 610人

市内事業者への支援の充実や成長が見込まれる分野などの育成を通じて、多様な働き場を確保し、雇用環境を充実します。

●住宅地の整備や宅地に関する情
報の発信

満足度目標 25.1% ⇒ 45.1%

安心安全な場所への住宅用地の開発、自然環境や気候などの住環境や空き家等に係る情報を発信します。

●想定される大規模地震による津
波犠牲者数

数値目標 13,000人 ⇒ 0人

最大クラスの津波から命を守る避難施設の整備などハード・ソフトを組み合わせた防災、減災対策を進めます。

●広報紙などで十分に情報発信が
されていると感じている市民の
割合

満足度目標 53.7% ⇒ 73.7%

ICTの活用による情報基盤の強化など、多様な媒体、手段による情報発信を行います。